

■富士正晴 詩人，小説家。戦争体験を中心に小説を創作しながら，“竹林の聖者”と呼ばれて文壇に独特の位置。

ふじまさはる

大正政変・・・1913＝ 徳島県三好郡山城谷村で，小学校訓導をしていた旧家に生れた。

21ヶ条要求・1915＝ 2歳：父が朝鮮の平壤に単身赴任。

ロシア革命・1917＝ 4歳：一家をあげて，平壤に移住。

ベルサイユ条約・1919＝ 6歳：母の勤めていた小学校に入学。

原敬首相暗殺1921＝ 8歳：一家で引き揚げ，神戸に住み，やはり母が勤めた小学校に転入。

水平社結成・1922＝ 9歳：

治安維持法・1925＝12歳：兵庫県立神戸第三中学校に入学，弁論部に入る。

日本時代始・1926＝13歳：二年の時，退学を希望，担任に説得される。以後，組織になじず，すぐ辞めたがる。

満州事変・・・1931＝18歳：一浪後，第三高等学校理科に入学するが，入院，詩を書き始め，文学を志し，志賀直哉に会いに行き，その紹介で竹内勝太郎と運命的な出会いをする。

五一五事件・1932＝19歳：竹内の指導のもとに，学友野間宏，桑原静雄と同人雑誌{三人}を発刊，詩人としてデビュー。

国際連盟脱退1933＝20歳：理科を中退，文科を受験しなおして合格するが，

芥川直木賞始1935＝22歳：退学。徴兵検査丙種合格。師とあおいだ竹内が黒部に遭難して，急逝。

日中戦争始・1937＝24歳：大阪府経済部に雇われるが，

健保+総動員 1938＝25歳：退職し，一人で竹内勝太郎著作刊行会をつくって，活動を開始。

大政翼賛会・1940＝27歳：

日米開戦・・・1941＝28歳：竹内勝太郎詩集「春の犠牲」を刊行。

・・・1942＝29歳：その関係で，弘文堂に就職，編集者として人脈形成が始まる。内務省に抵抗し，{三人}を廃刊。

創価学会検挙1943＝30歳：弘文堂を退職，東京の書店の関西駐在員のような仕事をする。末妹の同級生と結婚。

年金+総武装 1944＝31歳：妹が野間宏と結婚。召集され，中支に派遣される。

敗戦・・・1945＝32歳：敗戦直後，自らは不在のまま，妻を離縁。

新憲法公布・1946＝33歳：安徽省で武装解除され，捕虜生活ののち，復員船で帰国。

新憲法施行・1947＝34歳：伊東静雄，島尾敏雄らと{VIKING}を創刊。

極東裁判決・1948＝35歳：古本屋で見つけたV. ウルフの「オーランド」に没入，「小ヴィヨン」を書き上げる。一方，{表現}に「メリイ・ゴオ・ランド」が掲載され，初めて原稿料を得た。{VIKING}は分裂。

三大事件・・・1949＝36歳：再婚。高槻の中学校講師となるが依願免職。*久坂葉子と出会い以後相談相手と同じ頃，毎日出版文化賞の委員となり，のちには，直木賞，芥川賞の受賞者を予言したり，身の上相談の回答者になるように，世の中から一步引いた生き方が独特の役割をして行く。

朝鮮戦争始・1950＝37歳：最初の戦争小説「ひとこま」を発表。以後，18年かけて，戦争体験を作品化して行く。

独立回復・・・1951＝38歳：山崎豊子の口ききで，毎日新聞大阪本社の臨時雇となる。

メーデー事件・1952＝39歳：{VIKING}の姉妹誌{VILLON}を創刊。久坂葉子が自殺し，

TV放送始・1953＝40歳：{VIKING}{VILLON}合併号で追悼特集。{VIKING}の集団離脱，{VILLON}の廃刊。

自衛隊発足・1954＝41歳：毎日を退社，大阪文学学校講師となるも，1年で辞める。「競輪」が芥川賞候補。

開高健や司馬遼太郎をはじめ，直木賞，芥川賞の受賞を次々予言し，注目される。

なべ底不況・1957＝44歳：竹内勝太郎あての手紙の整理にとりかかる。

インスタントラーメン 1958＝45歳：

美智子妃・・・1959＝46歳：産経新聞の身の上相談{私の場合}の回答者となる。

安保闘争・・・1960＝47歳：唯一の時代小説を連載し「たんぼの歌」を刊行。

全国総合計画1962＝49歳：講談社の「20世紀を動かした人々」シリーズで桂春団治を担当，

TV宇宙中継始1963＝50歳：一応書き上げたが，さらに本格的に調査。

東京リビック 1964＝51歳：戦争小説集「帝国軍隊に於ける学習・序」が直木賞候補。

大学紛争始・1965＝52歳：「徴用老人列伝」が芥川賞候補。

いざなぎ景気1966＝53歳：友人が一切の面倒をみて，「富士正晴文人画展」が開催される。

美濃部都知事1967＝54歳：*「桂春団治」刊行，毎日出版文化賞を受賞。産経新聞の回答者を降る。

震ヶ関バトル・1968＝55歳：「竹内勝太郎の形成―手紙を読む」として発表開始，中断するが，

トルジョック・・・1971＝58歳：頼まれて「徳島県民の歌」を作詞。大阪芸術賞を受賞。

石油ショック1973＝60歳：父が死去。

角栄金脈辞任1974＝61歳：つづいて，母も死去。妻は人工透析を受ける身となる。

ケアンブル事件1975＝62歳：多くの人と対談。

田中角栄逮捕1976＝63歳：

JALハイジャック・1977＝64歳：「竹内勝太郎の形成」として刊行。「どうとなれ」，

成田衝突・・・1978＝65歳：「聖者の行進」，

革新大敗北・1979＝66歳：*「心せかるる」と小説を連続出版，一つの到達点を示した。

中曽根内閣・1982＝69歳：朝日新聞連載後，「竹林翁落筆急いてはならん」を刊行。

・・・1984＝71歳：京都新聞に連載後，

ジャンボ機墜落1985＝72歳：「榊原紫峰」を刊行。

バブル始・・・1986＝73歳：妻が入院，長男も結婚して，一人住まいとなり，東京の長女宅に引取られ，大阪新聞にコラムを連載，

竹下内閣・・・1987＝74歳：再び，古巣へ向かい，*大詩仙賞を受賞後，誰にもみとられずに，没した。

大川公一「竹林の隠者」，